



12・13世紀代の中国産陶磁器
当時の高級調度品! (I 地点)

1192年、源頼朝が鎌倉幕府を開きました。鎌倉に幕府が置かれていたのと同じ時期の遺構・遺物が多くみられるのが外箕輪遺跡の特徴です。平成5～6年度調査のI地点では、方位を揃え規則的に配置された建物跡や中国産陶磁器が出土し、鎌倉との関連を持つ人物の屋敷地であろうと考えられています。対照的に、平成8年度調査のII地点では、小規模な建物跡や溝跡が多く、国産陶磁器が多量に出土しており、一般農民層の集落であったと考えられています。



中世の大形掘立柱建物跡
I 地点では、10棟の建物跡がみつかっています。



12～14世紀代の国産陶磁器
(II 地点)

平成22年度出土遺物公開展「外箕輪ヒストリー～水といきる人々の歴史～」

(平成22年8月24日～8月29日 アビタ君津店)
(平成22年8月31日～9月5日 君津中央図書館)

編集・発行 君津市教育委員会文化振興課
〒299-1192 君津市久保2-13-1 TEL0439-56-1422
発行日 平成22年8月20日

外箕輪ヒストリー

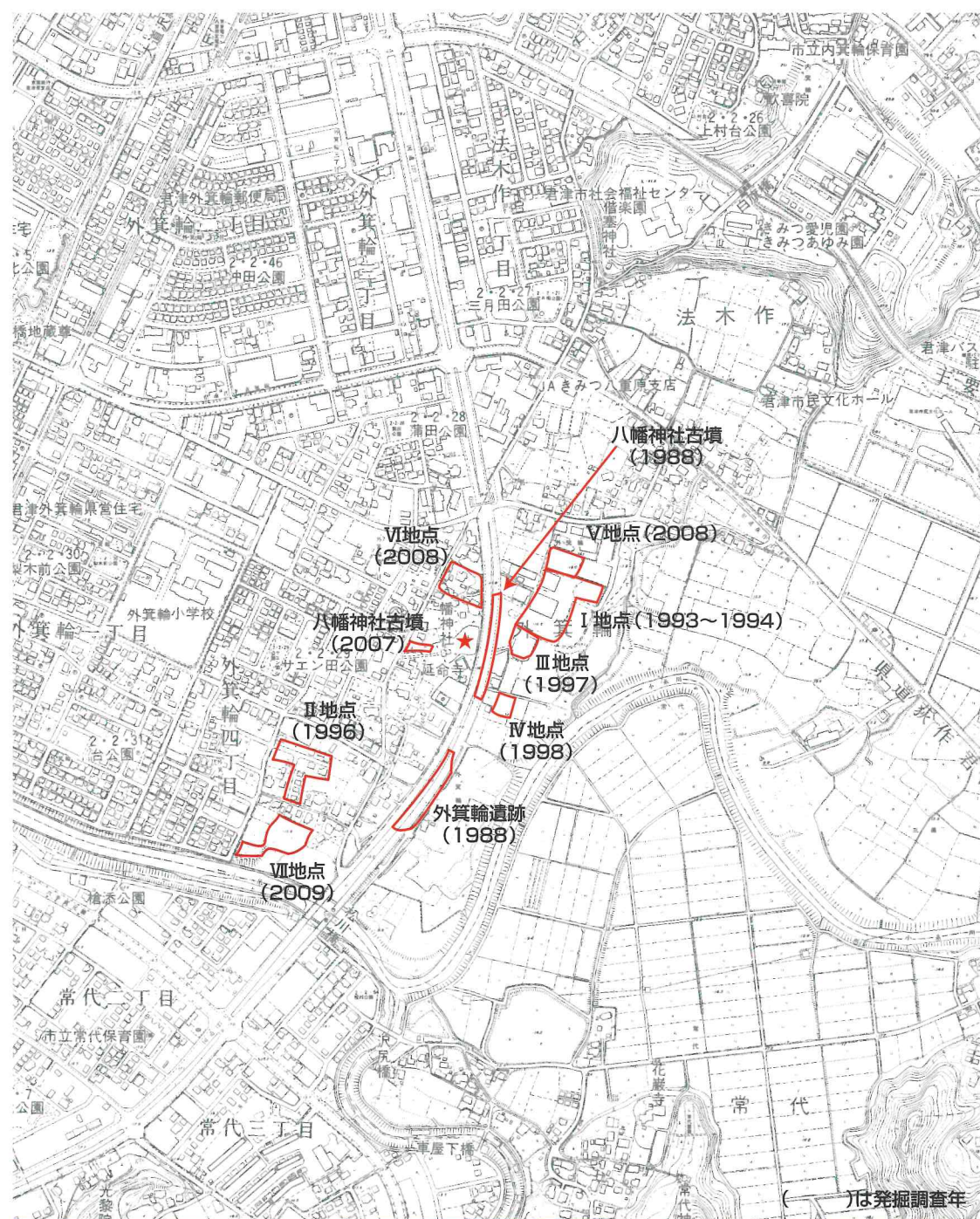
～水といきる人々の歴史～



古代から中近世までの溝跡や井戸跡・建物跡が調査区全体にみられます。(II 地点)

国道127号線沿いに広がる「外箕輪遺跡」では、昭和63年度から平成21年度にかけて、8地点で発掘調査が行われました。

調査の結果、中世の有力者の屋敷跡や、庶民層の集落跡がみつかりました。日常用の土器のほか、当時としては貴重な中国産陶磁器も出土しています。また、弥生時代以降から中近世に至るまでの溝跡が多くみられ、主に水田を営むための水路であると考えられています。そのうち、中世の溝跡は古代条里制（農地開拓のために制定した耕地の地割制度）の地割方向に一致していることがわかりました。発掘成果や出土遺物をとおして、いにしえの外箕輪の風景に思いを馳せてみませんか！



外箕輪遺跡調査地点位置図 (S=1/10,000)

※外箕輪遺跡内には、県・市指定史跡★「八幡神社古墳」(前方後円墳・古墳時代後期)が含まれています。

弥生時代



平成20年度調査のⅤ地点では、溝跡から、今からおよそ2100年前の壺(弥生時代中期・宮ノ台式)が出土しました。小糸川対岸には、同じ時期の木製品が出土した常代遺跡がありますが、外箕輪遺跡でも弥生人の存在を裏付ける発見となりました。

古墳時代

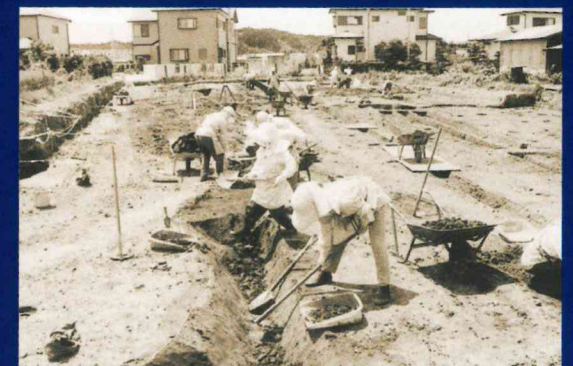
今からおよそ1700年前～1300年前の時代が古墳時代です。これまでの調査では、溝跡や竪穴住居跡、井戸跡が数基みられるのみです。しかし、遺跡内には大形前方後円墳・八幡神社古墳があり、この古墳を築造した人々の集落跡がまだ地下に眠っているかもしれません。



竪穴住居跡(Ⅶ地点)



井戸跡より出土した須恵器壺(Ⅶ地点)



各時代の溝跡を発掘中(Ⅱ地点)